

腎臓グループ

2016年12月更新

特徴

- 腎臓病総合医療センターの小児科部門としてチームとして治療にあたっており、2012年には小児腎臓科が新設された。
- 対象疾患：腎炎、ネフローゼ症候群はもとより、尿路疾患、腎不全、腎移植と幅広く対応。
- 腎移植の症例数：日本のトップレベルにあり、東海地方のみならず、中部地区、大阪からも来院。（詳細後述）
- 基本理念：腎疾患は長期にわたる管理が必要となることが多く、自立した社会人になることを最終目標とし、患児の発達や社会性の獲得の妨げとなる長期入院や不必要な安静を避け、全人的な管理をしている。特に腎移植外来では、小児専門看護師と一緒にTransition(移行)に関する取り組みを行なっている。
- 研究：NCKiDs(名古屋市立大学の腎臓グループ)での治療プロトコール作成。全国レベルのネフローゼ症候群の治験(JSKDC)への参加等。

症例数	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
慢性糸球体腎炎	16	8	13	9	16
アレルギー性紫斑病	7	15	8	17	17
紫斑病性腎炎	3	5	2	10	9
良性家族性血尿	1	3	0	2	4
ネフローゼ症候群	14	10	16	19	13
急性糸球体腎炎	0	1	0	0	0
溶血性尿毒症症候群	1	1	1	1	0
巣状糸球体硬化症	0	3	11		2
膀胱尿管逆流症	7	8	16	5	6
尿路感染症	6	15	33	11	32
神経因性膀胱	2	0	1	0	1
水腎症	16	10	18	14	12
低形成/異形成腎	0	6	0	0	0
尿路結石	0	2	1	1	0
(ESWL)	, (1)	(2)	(0)	(0)	0
夜尿	7	8	8	8	11
昼間遺尿	14	10	12	16	14
腎移植	2	2	2	4	3
慢性腎不全(透析導入)	3	3	0	1	1
その他	53	45	44	56	56
計	152	155	178	179	197
腎生検	38	32	43	47	58

腎臓(青)グループで (一般小児科以外に)習得してもらうこと

<疾患>

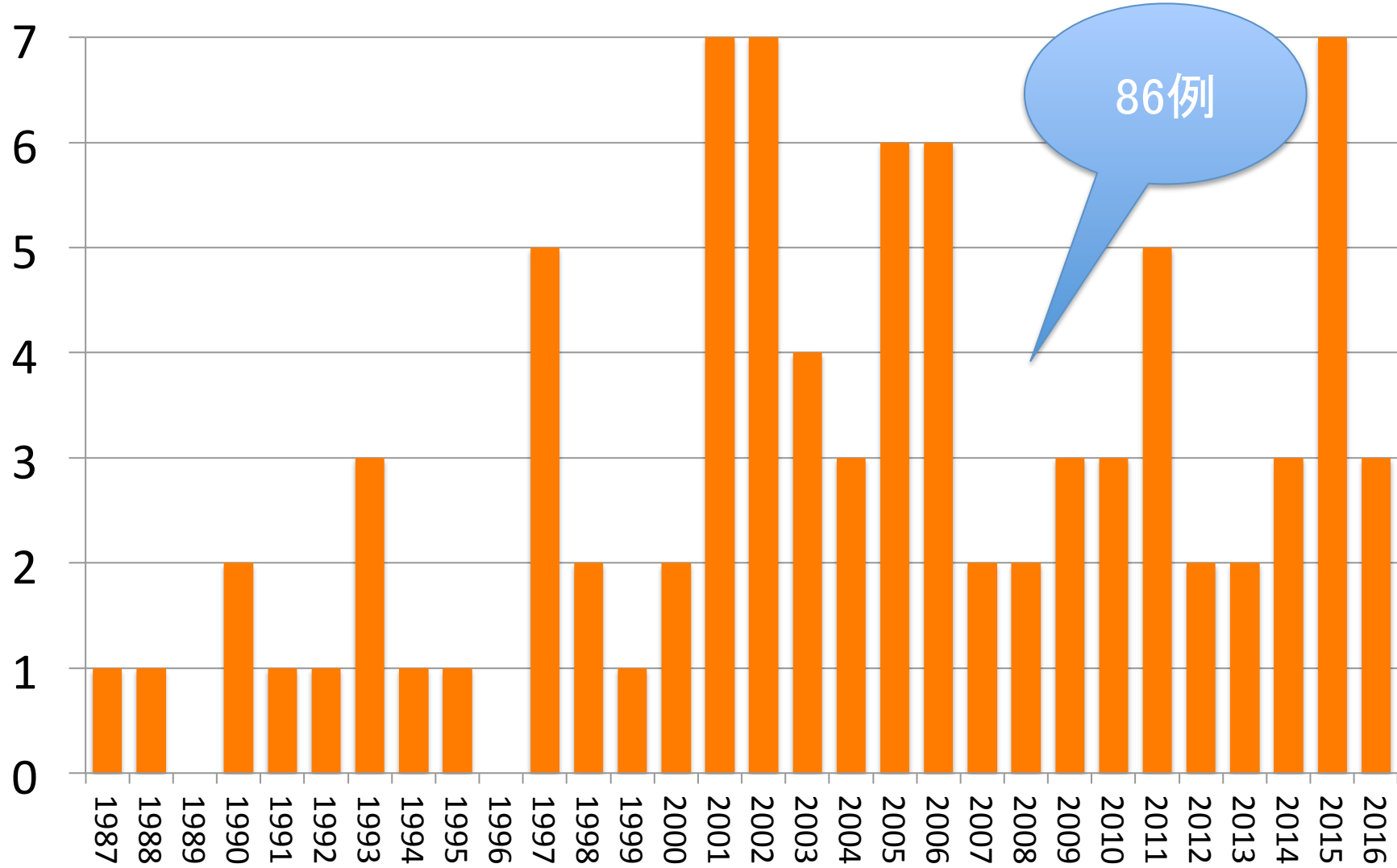
- 小児の腎機能が評価できるようにする
- 各種腎疾患治療における免疫抑制剤の使用方法の基礎を学ぶ

<手技>

- 膀胱造影: 低年齢児に導尿が出来るようにする。
- 腎生検の鎮静や各種検査の鎮静時、呼吸管理ができるようにする。

当院の特徴である 小児腎移植の成績

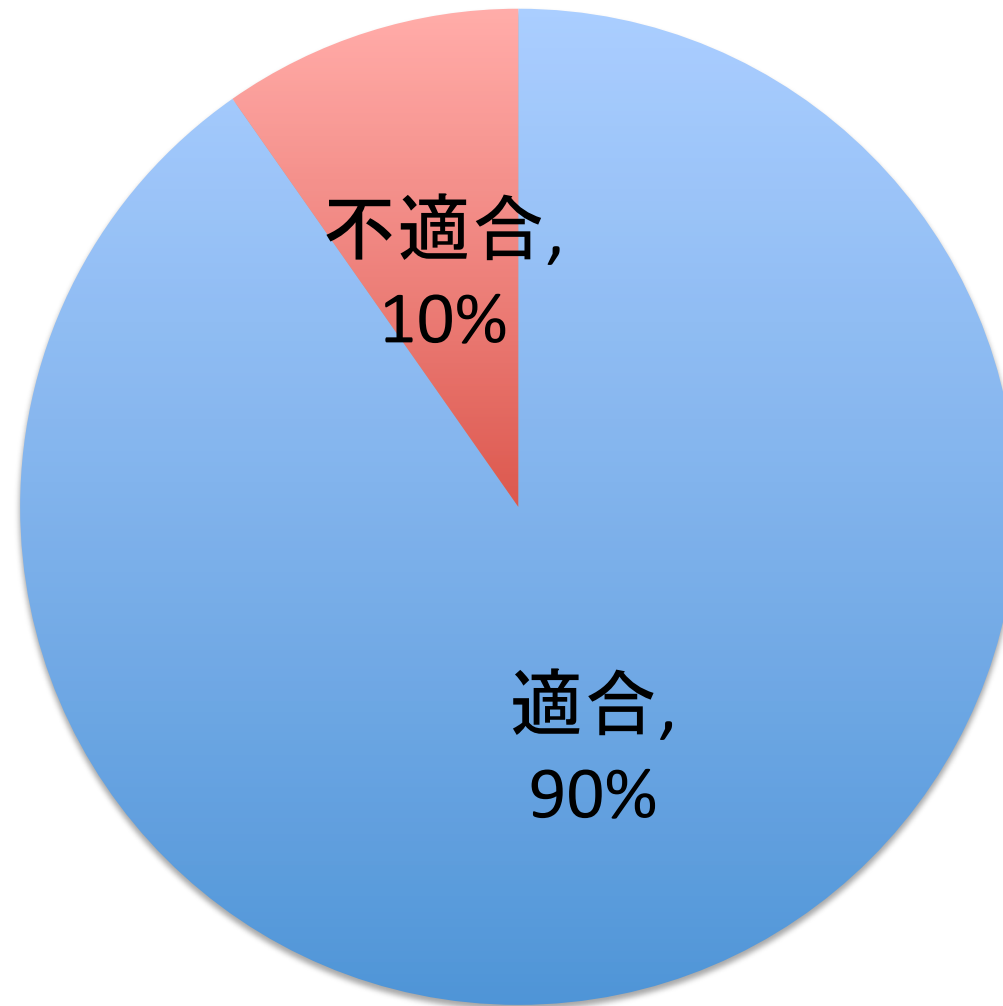
日赤小児腎移植 年次推移



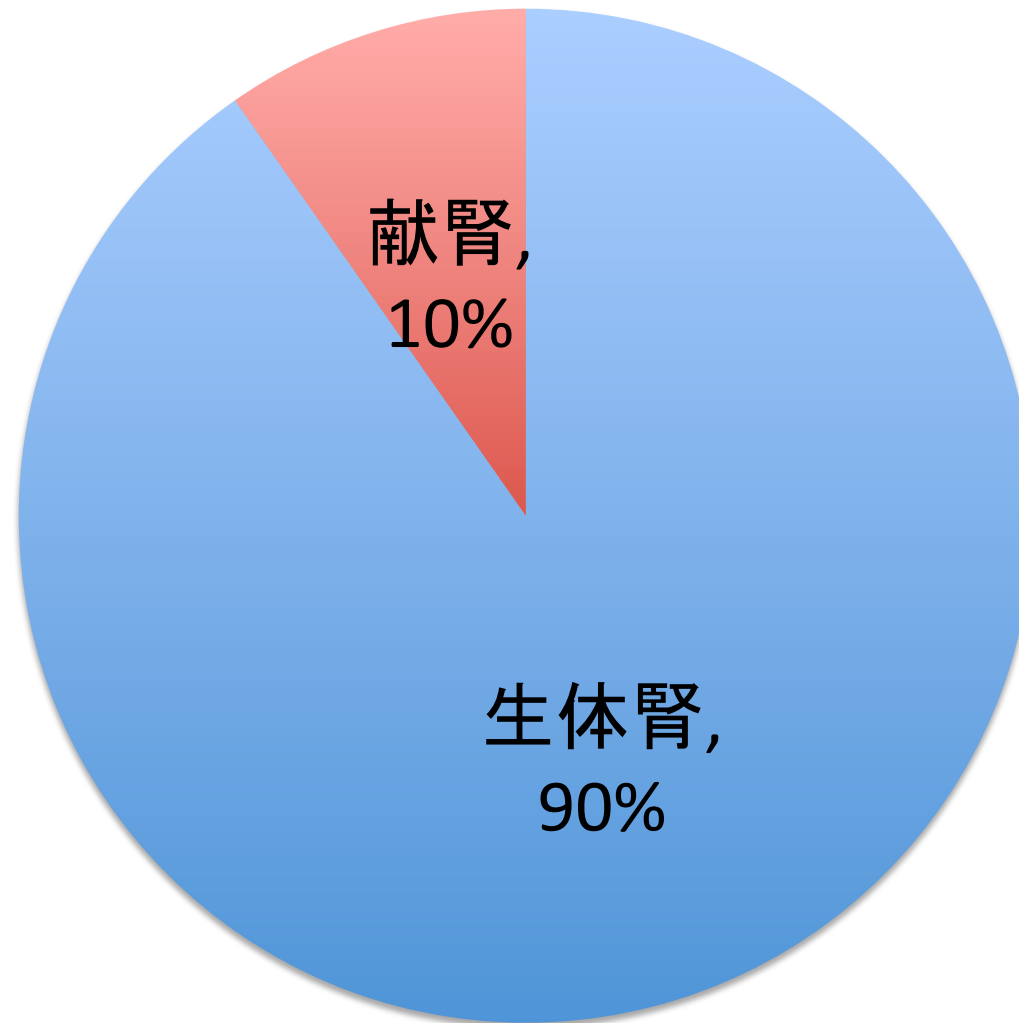
地域別症例数

地域	症例数
名古屋市内	23
愛知県	19
大阪府	11
三重県	7
岐阜県	5
奈良県	2
長野県	2
神戸	2
福井県	1
静岡県	1
宮崎県	1
富山	1

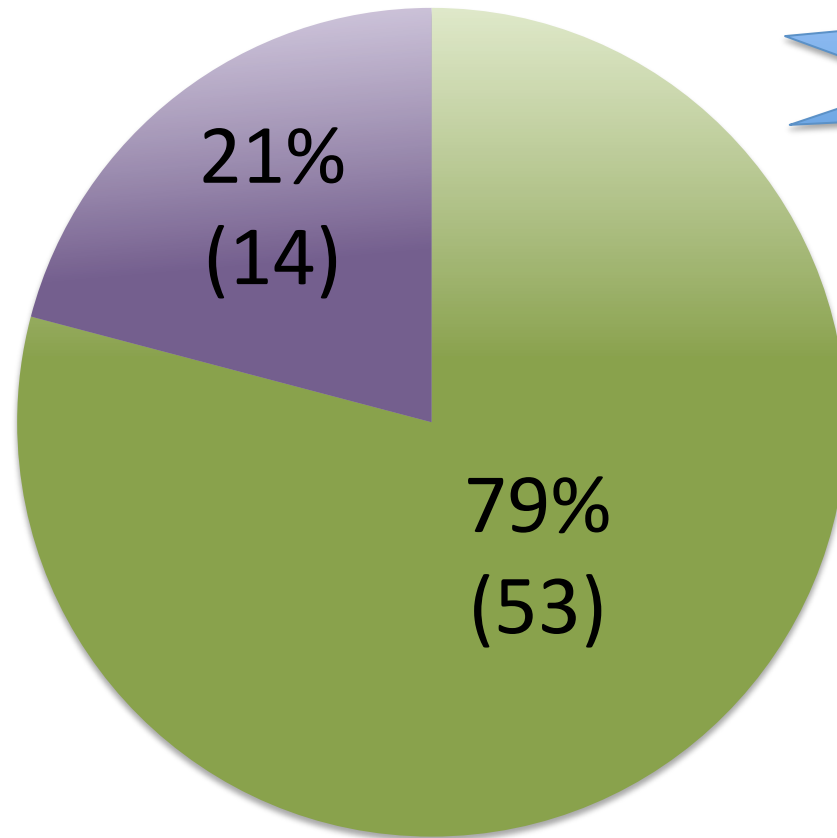
血液型



生体／献腎



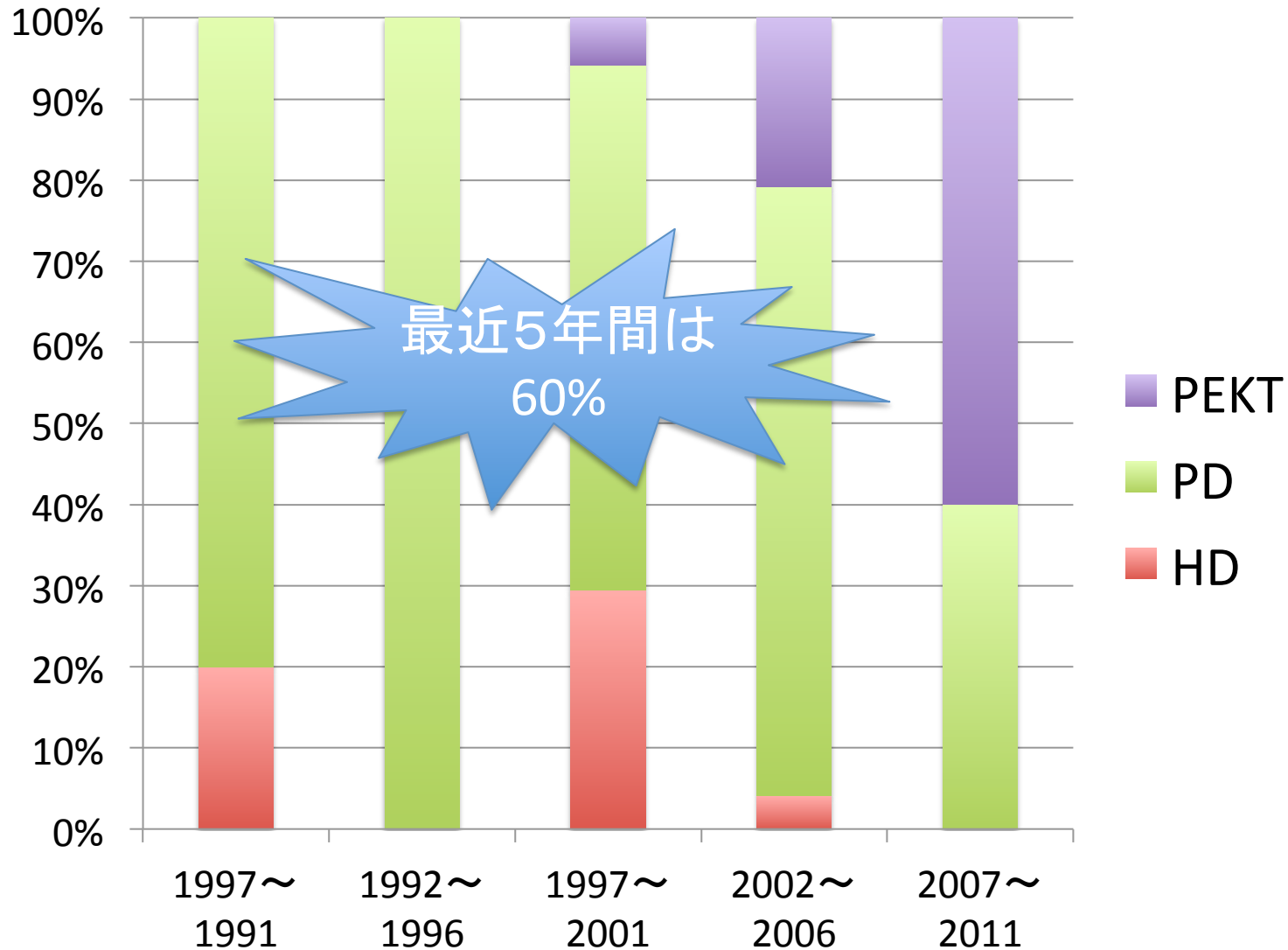
PEKT(先行的腎移植)の割合



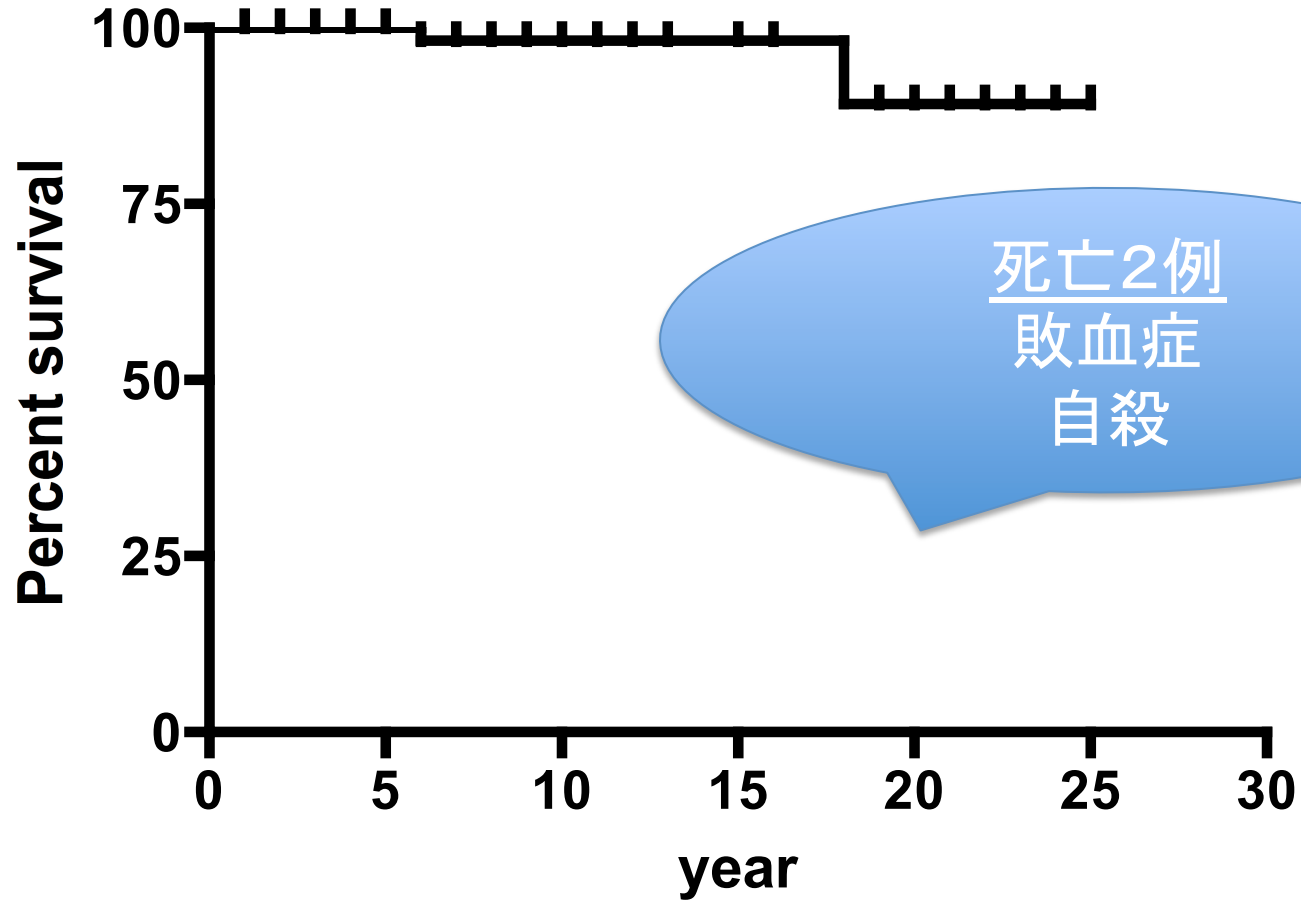
PEKTは21%

■ nonPEKT
■ PEKT

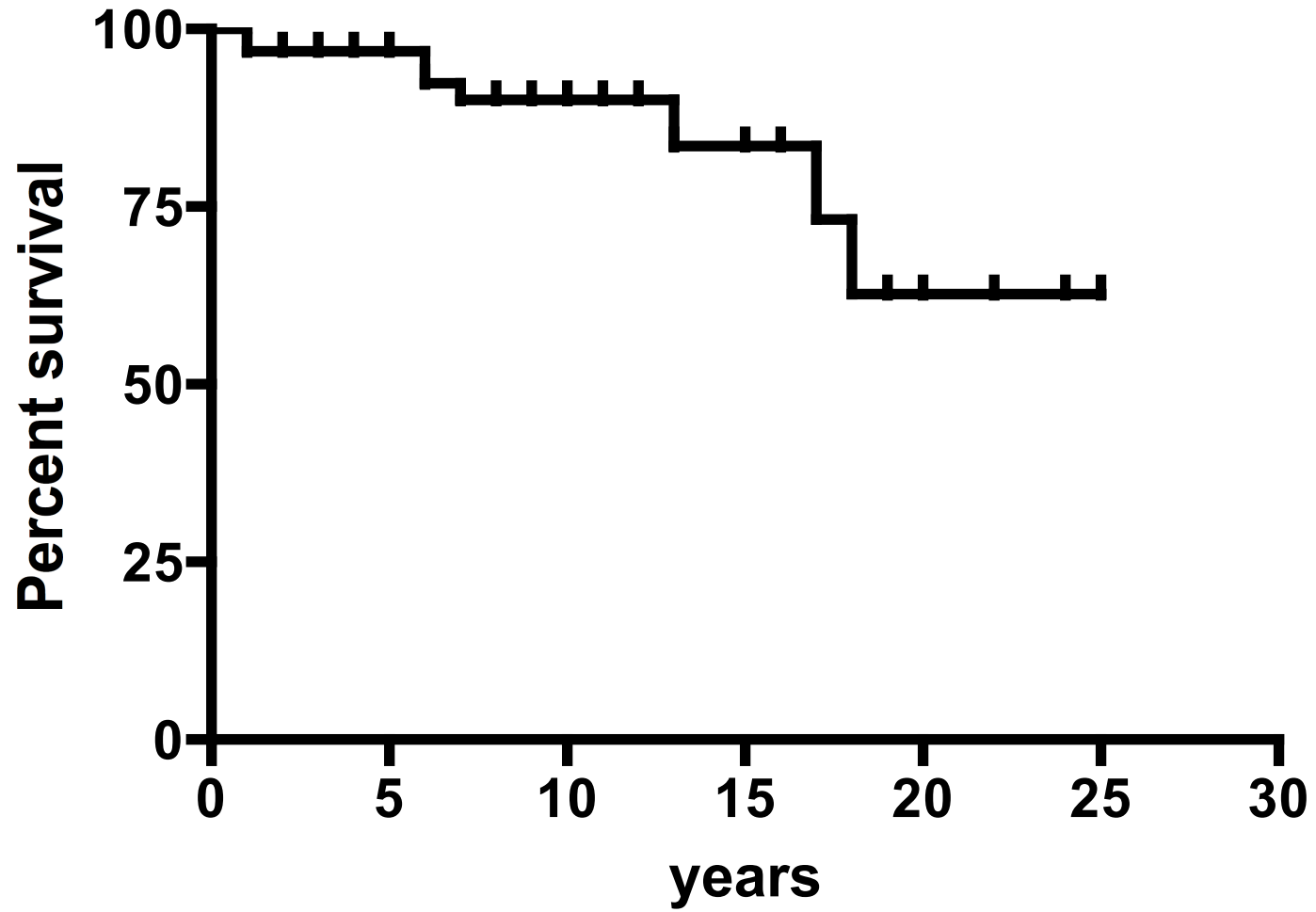
5年毎の集計



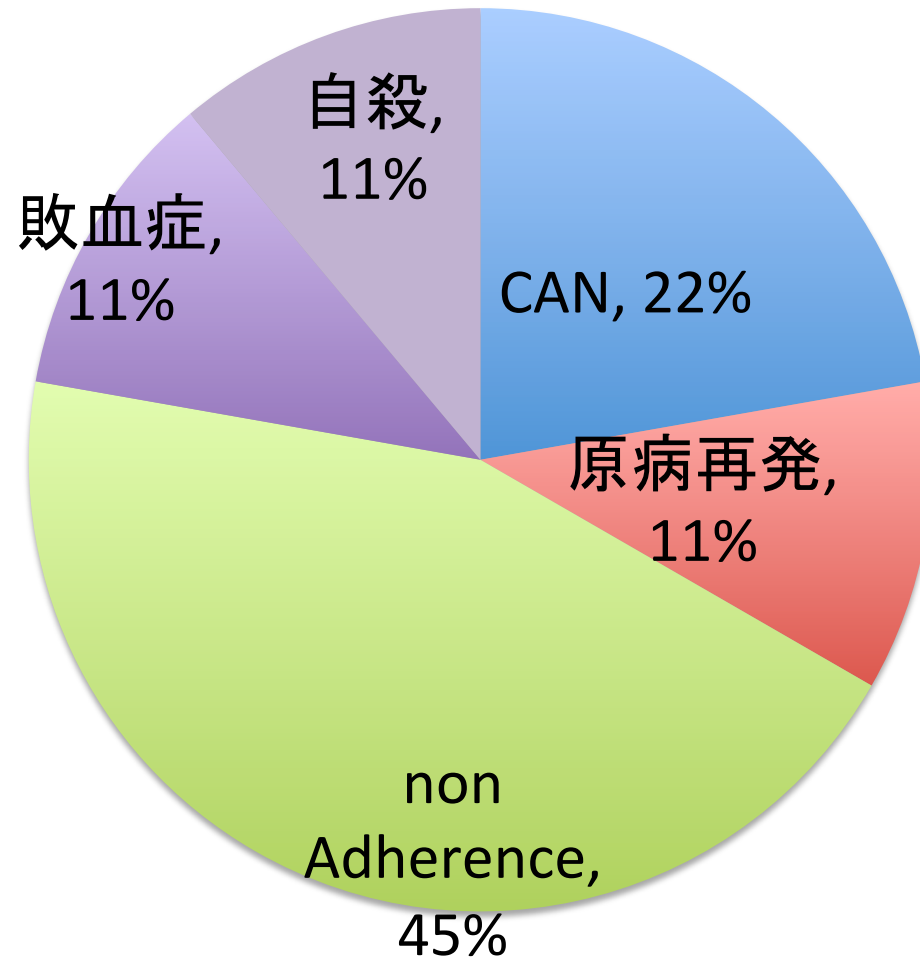
生存率



生着率



移植腎廃絶の原因



社会生活(56例)

職業	症例数	学校	症例数
会社	4	大学	1
公務員	2	高校	9
飲食店	2	中学校	9
薬局	1	小学校	3
調理師	1	養護学校	8
保育士	1	職業訓練校	1
装飾品店	1		
美容院	1	その他	2
バイト	3		
無職	2		
作業所	5		

資格/結婚/拳児

資格	症例数	結婚	
調理師	2	男性	3
美容師	1	女性	4
薬剤師	3		
調理師	1	拳児	4